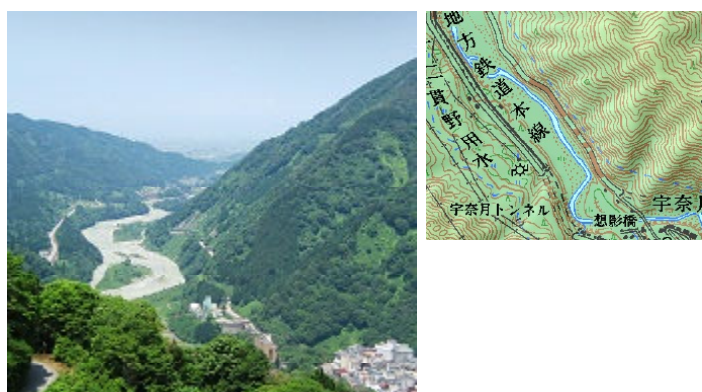


黒部川の特徴

黒部川は、北アルプスに源を発し、その流路のほとんどが深い峡谷となっている全長85kmの川です。そのため、上流部が長く、ようやく扇状地にたどりつくともまもなく海に流れ出るため、下流の特徴を示す場所がありません。日本有数の豪雪地帯を水源にもつため、本来は水量が多く、流れの速い川ですが、上流のダムにより水量の調節がされているので、ダム放水さえ注意すれば、落ち着いて川の観察ができます。ただし、もともとは急流河川であるため、川原の礫は一般に大きめです。黒部川扇状地では、湧水も多く、古くから活用が図られてきました。時間がゆるせば、河川での観察に加えて社会科の学習も考慮に入れてコース設定をすると、さらに効果的な校外学習が可能になります。

上流（宇奈月温泉付近）



中流（黒部大橋）



中流の礫の様子



扇状地の豊富なわき水



河口

